

# 母国語で地震対策を広報

## ボランティアが赤十字支援

米国赤十字、ベイエリア支部は現在、各国言語を話せるボランティアを募って、英語以外を話す民族系社会に地震対策の広報を進めている。米国の中でもベイエリアは特に多民族社会で、英語だけの広報では内容が十分住民に伝わらないため、ボランティアが母国語のパンフレットを持って会社などを訪問。主に個人が自分でできる地震対策を説明している。

九月中は、東京農大三年の松尾泰範さん(22)、東京都出身の中村百合さん(26)、東京大大学院修士課程一年の伊藤史治さん(24)、早稲田大三年の楠沢雄大さん(21)の四人がベイエリアの日系企業などを回った。

これは、自分が社会貢献をしているという実感。さらに、楠沢さんのように大学で社会学などを専攻していれば、ボランティアが学業のための大変よい参考になるという。

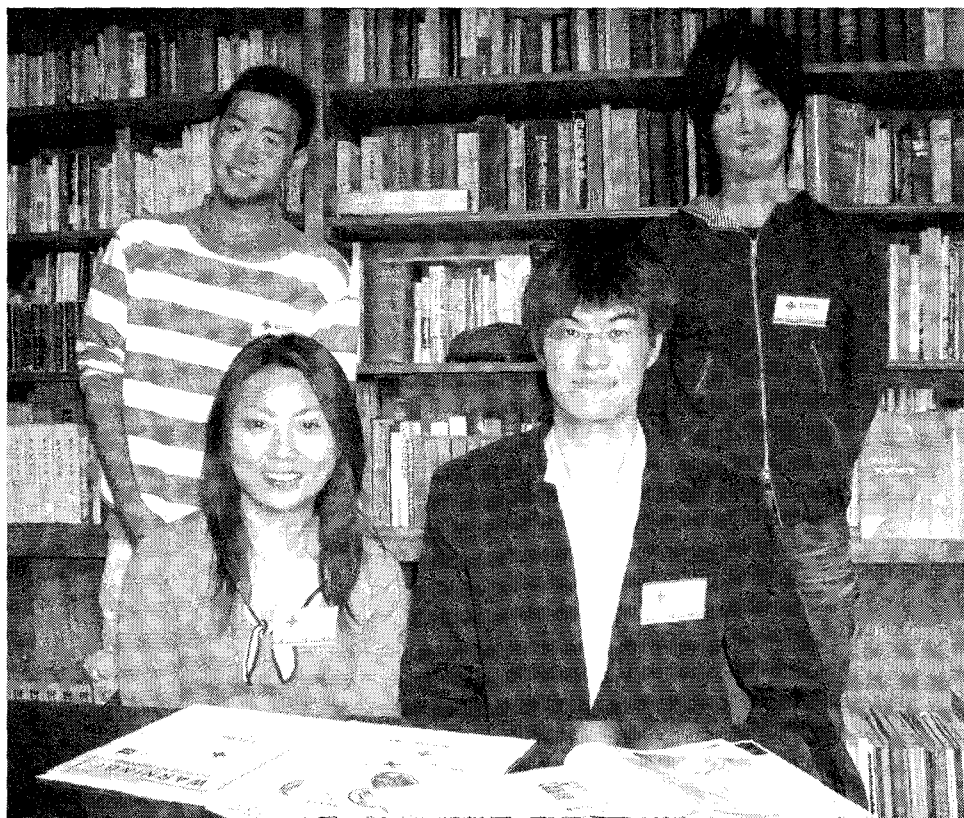
赤十字はボランティアを随時募集している。参加期間は二週間以上であることが条件で、配付用のパンフレットなどは赤十字から支給される。活動の主な内容は、学校や企業を訪問してパンフレットを配付したり、英語資料の和訳など。

ボランティアの参加申し込みは、次の担当者に連絡するか、ウェブサイトのボランティア申し込みのページに書き込んで申し込む。

American Red Cross  
Bay Area Chapter

Asian Community  
Prerareness

米国赤十字の地震対策を日本語で伝えた(左上から時計回りに)松尾泰範さん、楠沢雄大さん、伊藤史治さん、中村百合さん。9月9日、日米タイムズ



Mr. Michael Wong  
58 2nd. St. 8F

San Francisco, CA  
94105